

静岡

家庭医養成プログラム

専門医コース

静岡家庭医養成プログラムは、世界標準の家庭医療を日本の医療現場に即した形で身につけたいと願う若手医師たちのための家庭医養成コースです。

私たちは、この研修プログラムを通して、家族ぐるみのかかりつけ医となり、地域医療を再生し、超高齢社会で効果的に活動できる能力をもった「家庭医」を育てたいと願っています。

世界標準の

家庭医養成を

目指します



静岡家庭医養成プログラムの特徴

自治体がサポート

静岡県地域医療再生計画(H22年度～H24年度)に基づき、国や静岡県の支援を受け、2市1町(磐田市、菊川市、森町)が運営する家庭医養成プログラムです。

充実した指導体制

- ・日本の家庭医療の第一人者である三重大学名誉教授津田司氏(前家庭医療学教授)が理事長を勤める一般財団法人「家庭医療研究所」がプログラムの管理を行います。
- ・滋賀医科大学家庭医療学教授三ツ浪健一氏が研修医指導のサポートにあたります。
- ・指導医:佐野 潔 (元ミシガン大学家庭医療学臨床助教授)
- ・指導医:藤岡洋介(元ミシガン大学家庭医療学臨床講師)

世界標準の家庭医育成

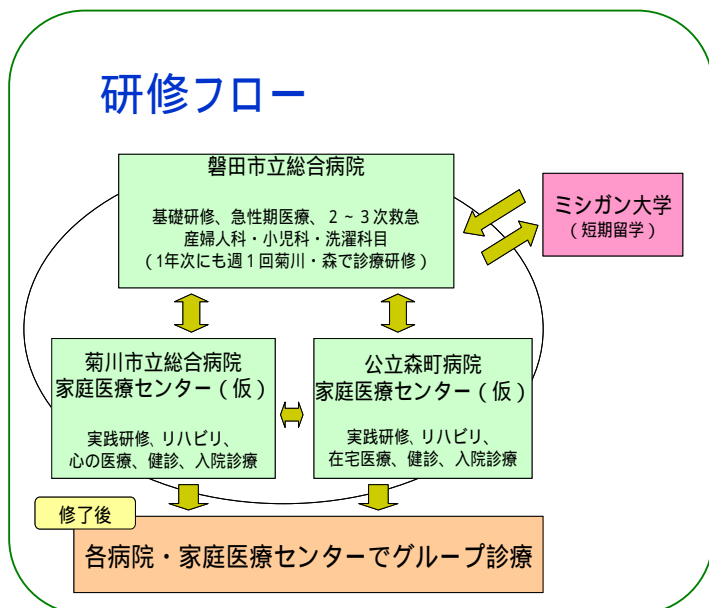
- ・家庭医療の先進国である米国で家庭医療学科ランキング3位(2009年)のミシガン大学家庭医療学科の指導医達(マイク・フェターズ、エリック・スカイら)が直接研修指導にあたります。
- ・研修医はミシガン大学家庭医療学科での家庭医療研修と家庭医生涯教育コースに参加することができます。

家庭医療・家庭医とは

(日本家庭医療学会の定義)

家庭医療とは、家庭の一員としての個人の健康問題を解決するためのケアを基本とし、地域をも考慮に入れた医療をいう。それは対象者の年齢、性に関わらず、地域の医療資源を有効に活用し、包括的・全人的ケアを継続的に行う医療である。その実践には、地域の医療状況により、いくつかの形態がありえる。

研修フロー



充実した研修環境

病院での研修

- ・2つの地域基幹病院(菊川市立総合病院、公立森町病院)と1つの高度急性期病院(磐田市立総合病院)がそれぞれの特性を生かしながら有機的なネットワークを形成し、効果的に研修をサポートします。
- ・初期研修医指導で定評のある磐田市立総合病院で、内科、小児科、産婦人科研修、救急および皮膚科、耳鼻科等の選択研修を行います。(磐田市立総合病院の産科は年間1,200件の分娩を扱い、2010年からは母子周産期センターをオープン)
- ・精神科病棟60床を持つ菊川市立総合病院で精神科研修を行います。
- ・2つの地域基幹病院でオープンベットを用いて入院診療も行います。
- ・2つの地域基幹病院で主に1.5次までの救急医療を研修します。

家庭医療クリニックを整備(構想)

- ・2つの新しい家庭医療クリニックを整備し、トレーニングを行います。
- ・各診察室には、ビデオ撮影システムを完備し指導医が医療面接、身体診察など外来診療の指導をします。

菊川家庭医療クリニック(仮称):

所長 津田 司(三重大学名誉教授、(財)家庭医療学研究所理事長)-予定

森町家庭医療クリニック(仮称):

所長 佐野 潔(元ミシガン大学家庭医療学臨床助教授) - 予定

地域で活躍できる家庭医

- ・ソロでの診療ではなく、グループで診療できる家庭医を養成します。
- ・家族ぐるみのかかりつけ医として、幅広くレベルの高い診療能力をもつ家庭医を養成します。
- ・高齢者のAging well (生きがいをもちながら健やかに老いる)、Aging in Place (住み慣れたところで自分らしく老いる)を支援できる家庭医を養成します。
- ・1.5次までの救急医療を担い、地域医療再生に貢献できる家庭医を養成します。
- ・オープンベットを用いて軽症患者の入院診療も行い、診療能力の高い家庭医を育成します。
- ・女性医療、妊婦健診もできる家庭医を養成します。

専門研修、フェローシップ・プログラム

<専門医コース>

3年間の専門研修では、家庭医療の研修期間を毎年増やしなが研修を積み重ねていきます。また、内科9ヶ月、小児科6ヶ月、産婦人科2ヶ月、整形外科3ヶ月、皮膚科2ヶ月は必須として日常よく見る健康問題に対する診療能力を高めていきます。更に、内科研修中にER研修、エコー検査研修、胃内視鏡検査研修を行います。

小児科・産婦人科研修中に週1～2回の眼科、耳鼻科、精神科外来研修を選択することも可能です。

3年間の研修を通じて地域基幹病院で当直業務を行います。2年目以降の家庭医療研修中には、レベルの高い診療能力を養うために地域基幹病院のオープンベッドを用いて軽症患者の入院診療も担当します。

<フェローシップ>

専門研修3年終了後にフェローとして更に2年間の老人医療、女性医療、FDコースなどを選択し、高いレベルの家庭医療を目指すことができます。

ローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修 1年目	オリエンテーション	家庭医療・内科		内科			外科	小児科、NICU		産科		婦人科
		超音波検査(ER)		Half day back, ER研修				Half day back, 小児ER		Half day back, 産婦人科ER		
専門研修 2年目	内科1	内科2	内科3	整形外科		産科	家庭医療			小児科		
	内視鏡, Half day back, ER研修			Half day back, 産科ER			内視鏡, ER			Half day back, 小児科ER		
専門研修 3年目	家庭医療											
	精神科(2/週)・放射線科(1/週)			皮膚科・泌尿器科(2/週)			眼科・耳鼻科(2/週)			選択		
フェローシップ 1年目	家庭医療センター研修(老人医療、ウイメンズヘルス、FD)											
フェローシップ 2年目	家庭医療センター研修(老人医療、ウイメンズヘルス、FD)											

研修目標

家庭医としての核となる臨床能力(Core Competence)

- (1) 医療コミュニケーション
- (2) 身体診察
- (3) 全人的医療
- (4) 患者中心の医療(patient-centered clinical method)
- (5) 患者教育
- (6) 医療行動学
- (7) 患者心理の理解
- (8) 臨床倫理
- (9) カウンセリング
- (10) Reflection
- (11) グループ診療

個人の医療・ケア(Individual Care)

- (1) Clinical reasoning
- (2) EBM
- (3) Common problemへの対応
- (4) Somatizationへの対応
- (5) 外来小外科
- (6) 小児・思春期患者ケア
- (7) 老人患者ケア
- (8) ターミナルケア・緩和ケア
- (9) 予防医学
 予防接種
 健康診断(学校健診、乳幼児健診、成人病健診)
 禁煙カウンセリング、断酒カウンセリング

家族指向のケア(Family-oriented Care)

- (1) 家族とともに生活する患者として捉える
- (2) 家族のライフサイクルに応じたケア
- (3) 家族問題への対応

地域立脚型ケア(Community-based Care)

- (1) 地域包括医療
 在宅ケア・在宅ホスピス
 ア 高齢者総合評価
 イ 介護保険の活用
 ウ 在宅ターミナルケア
 地域資源の活用
 ア ケアマネージャー
 イ 老人保健施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス
 ウ 在宅介護支援センター
 エ 訪問看護ステーション
 オ デイケア、ショートステイ
 カ ホームヘルプサービス
 キ 入浴サービス
 チーム医療の実践
 校医、産業医としての活動
- (2) 生きがい創生



ミシガンスタッフによる指導



症例検討



往診研修



募集案内

応募資格 専門医コース：初期研修修了予定および修了者
フェローコース：別途相談

募集定員 8名(予定)

研修開始時期 平成23年4月1日

応募手順 募集期間：平成22年10月31日必着、ただし募集定員
に満たない場合は適宜募集を行う
応募書類：願書(様式1)、履歴書(様式2)

選考方法 面接試験を行い、選考委員会の審議を経て可否を決定する。

問合せ 磐田市立総合病院 医療支援課
(電話 0538 - 38 - 5000)
E-mail byoin-kanri@city.iwata.lg.jp

磐田市立総合病院



公立森町病院



菊川市立総合病院



静岡県

